

[4] ワンポイント解説

第1問	問1	<p>年号の数字に頼るよりも、大まかな時代の把握により解く方が確実な、センター試験では典型的な並べ替え問題(整序問題)。まず a のアレクサンドリアの建設(前 331)はヘレニズム時代初期のこと。b のアラブ人によるエジプト征服は、初期のイスラーム世界の第 2 代正統カリフであるウマルの時代のこと(アレクサンドリア征服は 642 年)。c のプロトレマイオス朝の滅亡(前 30)はアクティウムの海戦に続いてオクタヴィアヌスが実行した。つまり帝政成立直前のローマによるもの。よって、ヘレニズム時代→ローマ帝国成立の頃→イスラーム世界、と考えただけで a→c→b とわかる。</p>
	問4	<p>これもセンター試験では頻出なのだが、誤りを判定するポイントが内容面にある文と年代にある文が混在しているため意外にケアレミス誘発しやすい。①の農場領主制(グーツヘルシャフト)は 16 世紀頃からエルベ川以東の東部ドイツで広まったため、文中のエルベ川<u>以西の西ヨーロッパ</u>は誤り。②の第 1 次囲い込み(英)も 16 世紀だが、牧羊のためのものであって牧牛のためではない。④のロシアにおける農奴解放令は <u>19 世紀(1861)</u>なので 16 世紀ではない。③は平易な正文なので単独で見ても選べるが、消去法を併用するつもりで解くとより確実である。</p>
	問6	<p>年号の数字に頼るより、事件の流れの把握により解く方が確実な並べ替え問題。問 1 と同様に、これもセンター試験では典型的なタイプである。まず c の権利の請願(1628)は、ステュアート朝のチャールズ 1 世に議会が提出したもの。その後ピューリタン革命が発生し、チャールズ 1 世は捕らえられて処刑された(1649)。こうして共和政に移行した中で政権を掌握したクロムウェルは、中産市民層の声を受けてオランダの商業覇権に挑むために航海法を発布した(1651)。このように流れを追っていけば確実に c→a→b と確定できる。</p>
	問7	<p>モールスによる電信機の発明(1837)は重要事項であり、①は単体でも正文と判断できるが、他の文の誤りも確認すべき。まず②だが、無線電信の発明(1895)はマルコーニ(伊)であって<u>アークライト</u>(水力紡績機の発明者)ではない。次に③だが、アメリカ合衆国におけるラジオ放送の開始(1920)は、<u>第一次世界大戦後の繁栄するアメリカ合衆国(黄金の 20 年代)</u>での事項としてイメージできなければならない。そして④だが、インターネットの普及は 1990 年代であり、<u>20 世紀前半に普及するはずがない</u>ので論外。消去法で考えても①しかない。</p>
第2問	問1	<p>ここ数年で増加している 2 文の正誤の組み合わせ問題。この形式の場合、1 文ごとに正誤を確定しなければならないため、細かい内容や微妙な表現が入ると解答が困難になってしまう。この問題では、a の『アヴェスター』はゾロアスター教の經典であり<u>マニ教</u>の經典ではないから容易に誤文と確定できる。しかし b で迷った受験生は意外と多かったのではないだろうか。通常、ウラディミル 1 世(キエフ公国)についてはギリシア正教に“改宗”という表記が教科書などで一般的であり“国教”という表現はあまり見受けられない。正文ではあるが、入試問題としては意表を突いた表現であるため少々難易度の高い問題になっている。</p>
	問6	<p>3 つめの並べ替え問題であるが、これも第 1 問-問 6 と同様に、流れから考える方が確実である。まず、c のモンロー宣言(1823)はラテンアメリカ諸国の独立への干渉に反対するものであり、ウィーン体制の前半(七月革命以前)の事項である。またモンロー大統領はフロリダをスペインから買収したが、この当時アメリカ合衆国はまだ太平洋岸への進出はできていない。次に、a のアメリカ=メキシコ戦争(米墨戦争、1846~48)によって合衆国は太平洋岸のカリフォルニアを獲得している(→ゴールド=ラッシュ)ため、a は c の後である。そして南北戦争を経て 19 世紀後半に工業力が急成長してから合衆国は中国への経済進出を望んで門戸開放宣言を発表した(1899・1900)のであるから、b は a の後になる。このように年号の数字の知識に頼らずとも c→a→b と確定できる。</p>

<p>第3問</p>	<p>問1</p>	<p>①について補足しておこう。『新約聖書』はイエスの生涯やその教えをまとめた4福音書などで構成されたものであり、ユダヤ教の教義とは異なるものである。したがってユダヤ教の側では『旧約聖書』を聖書とするのみであり『新約聖書』を聖典とはしない(実は“旧約”という表現自体がキリスト教側からのもの)。一方キリスト教は、ユダヤ教における全知全能の創造主としての神の設定などは継承しつつ、ユダヤ教での“罰する神”から“慈愛の神”へと解釈を変更したものであり、『旧約聖書』の神による世界の創造などは継承している。そのためキリスト教では『旧約聖書』と『新約聖書』の両方を聖書という。</p>
	<p>問3</p>	<p>②は比較的明確な正文であるが、④の誤りに関して述べておく。イギリス東インド会社が地稅徴収のためインドで展開した手法は2種類あり、北インドでは領主(ザミンダール)たちを保護する代わりに農民からの徴稅を委託するザミンダリー制をとったが、これには徴稅による農民からの反感を領主層に向けさせる効果もあった。これに対して有力な領主層(豪族)が存在せず小農民主体の社会であった南インドでは、イギリスが農民から直接徴稅するライヤットワーリー制をとった。したがって、この文で述べている“領主層を地稅納入の責任者とする”というのはザミンダリー制の内容であり、ライヤットワーリー制の内容ではない。このように、制度の内容を正しく理解していないと判定が難しい文だが、決して難問ではない。日常の学習姿勢によって得点差が付きやすい問題である。</p>
	<p>問6</p>	<p>②の誤り(ストルイピンはミールを保護ではなく解体した)は明確だが、④について述べておく。イギリスの第2回選挙法改正(1867)では都市労働者(工場労働者)に選挙権が拡大されたが、彼らより所得水準が低かった農業労働者や鉱山労働者には第3回選挙法改正(1884)で付与された。こうした労働者の区分は、センター試験としてはやや詳細な内容だが、入試問題としては重要事項である。</p>
<p>第4問</p>	<p>問2</p>	<p>これはやや難問である。④の北米自由貿易協定(NAFTA、1992)はアメリカ合衆国・カナダ・メキシコの3国の参加による自由貿易経済圏であり、キューバは参加していない。しかし現代史の中でも非常に新しい事項であり、まして参加国を詳細に記憶している受験生はあまりいなかったことだろう。ただ、その性格(自由貿易協定)と旧来のアメリカ合衆国とキューバの激しい対立を考えれば、NAFTAを正確に学習していなくとも、強い反米的姿勢と社会主義を特色としていたキューバがこれに参加するのは不自然と考えるべきであろう。ただし、①と迷った受験生もいたかもしれない。①では宋が市舶司を設置したとなっているが、これを読んで「市舶司は唐の玄宗が広州に初めて設置したものだ」と短絡的に考えて誤りだと思ってしまう可能性が考えられる。実際には唐で設置された市舶司は、さらに海上交易が発展した北宋・南宋では広州以外の海港都市にも広く設置されている。そのため、早合点してこちらを誤文と思い、判断の難しい④をつい正文だろうと判断するケースが考えられる。</p>
	<p>問6</p>	<p>2文の正誤の組み合わせ問題であるが、bについて述べておく。中世ヨーロッパでは商業の発展と都市の増加が見られた後半に入っても、のちの近代以降と比較すれば人口はまだまだ少なく人々の生活にも余裕がなかった。つまり社会全般の購買力が低かったため、商品の販売先は一部の富裕層が相手であり販売量は限定されていた。こうした状況のため、自由競争による価格の下落を防ぎ利益を確保するため、ギルドは商品の生産や販売を厳しく統制して数量を割り当てることまでおこなったのである。それは商人ギルド・同職ギルド(ツunft)とも同様であった。したがって、bの“<u>生産・流通の自由競争を保障するため</u>”という記述は明確な誤りである。</p>

	問 9	<p>これも 2 文の正誤の組み合わせ問題であるが、年代(世紀名)の誤りを見抜かせる形式となっている。そこでまず a についてだが、ヴィジャヤナガル王国(1336~1649)はチャョーラ朝が衰退すると台頭した南インドのドラヴィダ系国家(ヒन्दゥー教王国)であり、その重要港市であるカリカットにはヴァスコ=ダ=ガマがインド航路開拓(1498)の際に来訪したことで有名である。しかし、この王国の成立年を数字で記憶している受験生は非常に稀なのではないだろうか。そしてヴァスコ=ダ=ガマのカリカット来訪の年号を記憶していても、この王朝の成立年号とは無関係であり正誤の判断には役立たない。また 2 文の正誤の組み合わせ問題であるため、消去法などは使えず判断するしかないのである。マドラス・ボンベイ・カルカッタが 17 世紀にイギリス東インド会社の拠点となったことは重要事項であるから b が正文と判断することは容易だが、a は困難である。そのため、かなり難易度の高い問題となっている。</p>
--	-----	--